KU EXPRESS
関西大学 プレスリリース

KANSAI UNIVERSITY

地域連携、地域貢献、企業連携　2026 年 11 月 17 日／No. 42

■ “就活でパンプス”本当に必要？ 学生がアンケート調査 ■
回答企業は全社「必須マナーではない」
～ 社会学部守ゼミ／学生の「当たり前」と企業の認識にギャップ ～

関西大学社会学部の守如子ゼミでは、就職活動の身だしなみとして多くの学生が「当たり前」と考えている「女子学生のパンプス（かかとのある靴）の着用」に疑問を持ち、企業側との意識のギャップについてアンケート調査を行いました。

本件のポイント
- **社会学部・守ゼミの学生有志が「就活におけるパンプスの必要性」に疑問を持ち、アンケート調査を実施**
- **学生側は 5 割がパンプスの着用に抵抗感を持つ一方、6 割が「当たり前のマナー」と認識**
- **企業側は全社がパンプスを「必須のマナーではない」と回答。学生との意識の「ずれ」が浮彫りに**

■ 「小さな疑問」から調査スタート

守ゼミの学生たちは「就職活動時に『スーツは黒』『女性はパンプス』といったマナーが存在しているが根拠や必然性が明確ではない。企業側がどの程度重要視しているのか」という疑問を抱き、アンケート調査を企画しました。

就活を経験した学生・社会人 31 人に聞き取り調査を行うとともに、32 社に調査票を送ったところ、7 社から回答がありました。

学生側はパンプス重視の傾向がはっきり見られ、「就職活動でパンプスを履くことは『当たり前だ』と思いますか」という問いに「とてもそう思う」「まあそう思う」を合わせると 65%となり、理由として「就活のマナー」「身だしなみの一つ」などと回答。また、35%が「就活のために購入した」と回答しました。一方で、「歩きにくい」などの理由で 46%が「抵抗感がある」と回答し、「足が疲れる、痛くなる」などの理由で「パンプスが原因で集中できない」という回答も 64%ありました。「違和感を持ちながらも（ポジティブな理由でなく）マナーだと思って履いている」という実態がうかがえます。



〈就活のパンプスの必要性について調査をした守ゼミ有志と守如子教授（右端）〉

一方、企業側では、回答した 7 社のうち「パンプスは必須のマナーととらえている」と回答した企業はゼロ。「面接に来た女子学生がヒールのない靴（ローファーやフラットシューズ）を履いていた場合、どのような印象を持ちますか」と尋ねたところ、「マナー不足を感じる」という回答もゼロでした。「男子学生と同様の革靴やローファーを履くことに違和感があるか」という質問に対しても、「違和感がある」という回答はありませんでした。

学生と企業の間に認識の差があることが浮き彫りになり、チームとしてはこの内容を更に分析し、就活における男女差をなくすために認識を変えていく必要性を発信していきたいとしています。

■ 守如子教授のコメント

航空会社がヒールの高さ規定を撤廃するなど、様々な場面で多様な形態の靴が容認されつつある現在、それでも就職活動では多くの女子学生がパンプスを選んでいる。このグループの研究の重要性は、実際の学生の声と、企業の声を聞き、両者の認識のギャップを明らかにしたことにある。何よりもまず、学生が思うほど企業の側はパンプスを求めていないことを、もっと多くの人に知ってほしい。

また、この調査は、多くの学生が違和感や歩きにくさを覚えており、パンプスが原因で就活に集中できなかった経験もあるのに、「当たり前」「周りと違う靴を履くと不安」という思いで、パンプスを履いて就職活動をしていることを明らかにしている。ここには、ジェンダー問題の典型が見える。大変な思いや違和感を抱きながら、女性にとって、あるいは男性にとって、それが「当たり前」だからと受け入れてしまっていることは、パンプス以外にも存在しているのではないか。この調査は、私たちの「当たり前」も問い返してくれているように思う。

この件に関するお問い合わせ先
関西大学　総合企画室 広報課　　担当：伊地知、小林
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35　Tel. 06-6368-1937　Fax. 06-6368-1266
www.kansai-u.ac.jp